
始まりと終わりのない恋愛

山上 楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

始まりと終わりのない恋愛

【Nコード】

N0798U

【作者名】

山上 楓

【あらすじ】

ハクが恋をした？

VOCALOID以外のキャラクター登場の恋愛小説です。

ハクの気持ち（前書き）

初めての投稿となります（^ー^）
ほとんど亜種しか出ませんが、楽しんでいただけたら幸いです（^
ー^）

ハクの気持ち

（私は一体…）

「はあ…どうせ私はだめなやつなのよ…」
酒を飲みながら涙目の弱音ハク。

「しょうがねえだろ。俺達は元々VOCALOIDじゃないんだから…」

そういう本音デル。

「そうだけどね…私たちはVOYAKILOIDだもんね…」

「まあな…諦めようぜ…」

「そうね…今日も飲みましょ…」

「ハク姉もデル兄も暗いよ…」

と、初音ミク。

「仕方ないでしょ？私はあなたと違ってVOCALOIDじゃないんだから…」

「だからって…」

「分かったら向こう行って。今は飲みたいのよ…」

「……」

黙って背を向けて歩いていく初音ミク。

「……はあ…」

そしてハクは、誰にも聞こえない声で、

「私に恋人でもできたら…何かが変わるのかな…」

と、呟いた…

ハクの気持ち（後書き）

いかがだったでしょうか？

初めてなので短いですが（^| ^ ;）

次回より頑張つて長くしたいと思います（

^| ^）

新キャラ登場させるつもりですww

よかったらコメントをお願いします！！

あなた…誰…？（前書き）

新キャラ登場となります（＾―＾）

あなた…誰…？

次の日…

「はあ…おはよデル…」

「おはようじゃねえよ…もう昼だぜ…」

「別にいいじゃない…やることないんだし…」

「そうだけだよ…」

「でしょ？ちよつと散歩してくるわ…」

「ああ…」

そう言つてデルと別れたハク。

「はあ…恋愛なんて夢のまた夢…人に夢と書いて儚い…まあ…私は人じゃないけど…」

そんな独り言をつぶやいていると…

「ん…？誰…？」

目の前に見たことのないVOCALOIDらしきものが立っていた。

「………」

「えつ…と…」

「名…前…は…？」

「…え？」

「名…前…」

「えつと…私は弱音ハクだけど…あなたは…？」

「死…音…」

「…え…？」

「…僕…死…音…死の…音で…死音…」

「へえ…死音君っていうんだ…」

「君と同じ…VOCALOID…亜種…」

「あなたも…亜種…？」

「………」（コクリ）

「そ、そう…なんだ…」

(どうして...? 普通に話しているだけなのにこんなにドキドキするの...?)
(この気持ちは...何...?)

あなた…誰…？（後書き）

今回新キャラとして死音というキャラクターを入れました（＾―＾）
死音の設定として、

？感情がない（というより分からない）

？…の言葉が多い

？歌が嫌いなVOCALOID亜種

？名前のとおり歌を聴くと死ぬことがある

？たまに歌を聴くと幸せばかり続くことがある

です（＾―＾）

最近VOCALOID亜種はたくさんあつて、1500以上存在
してるそうで（＾―＾；）

なんで鼓動が止まらないの…！？（前書き）

ハクが恋に目覚めたのですが恋自体を知らないのでよく分からなくなるお話です（＾―＾）

なんで鼓動が止まらないの…！？

（落ち着いてよ私…！！）

「はあ…はあっ…」

「……？」

「な、なんでもないんだよ…？」

「……嘘…？」

「っ…！」

「違っ…た…？」

「ち、違うよ…！」

「……」

「……」

（なんで…なんで鼓動が止まらないの…！？）

ハクの心臓は破裂するんじゃないかというくらい早くなっている。

「ハクはVOYAKILOIDなので心臓なんてないんですけど」

「^…^…）」

「わ、私…帰るね…？」

「待っ…て…」

「え…？」

「ハク…危ない…僕が…送る…」

「い、いいよそんなこと…！」

「大…丈…夫…？」

「だ、大丈夫だから…！またね死音君…！」

そういうハクは、顔を真っ赤にしながら死音から離れて行った…

（私…どうしちゃったの…！？）

なんで鼓動が止まらないの…！？（後書き）

次くらいでハクが恋に気づくようにしたいですね（＾－＾）

もしかしてこの気持ちが…（前書き）

恋というのに気付きます（^ー^）

もしかしてこの気持ちが…

「た、ただい…ま…」

「ああ…って、なんでそんなに息切れしてんだ…?」

「あ、ううん…何でもないんだよ!？」

「声裏返ってるし…」

「と、とにかく何でもないので!! 変な人にも会ってないからね!？」

「聞いてねえ…」

「あつ…!!」

「お前…誰か会っただろ？」

「う、ううん!？」

「嘘だ。」

「ち、違うよ!？ 死音君になんて会ってないよ!？」

「…誰だその死音って?」

「あうつ!？」

「…誰だよ?」

「……秘密!!」

そう言っで逃げるハク。

「あ、おい待てよハク!! 誰なんだよ死音って!？」

「秘密なの!!」

（ごめんデル…私…死音君のこと…好きになっちゃったみたい…）

「好き…これが恋…!!」

（私…死音君に恋してるんだ…!!）

もしかしてこの気持ちが…（後書き）

次はデルの気持ちを書く特別編です（^| ^）

悩むデル（デル視点）（前書き）

今回はデルが主役です（＾―＾）

悩むデル（デル視点）

「一体どうしちゃったんだよ…ハクは…」

デルは突然逃げたハクの行動が理解できず悩んでいた。

「誰だ…死音ってやつは…!？」

考えても思い当たるVOCALOIDはいない。

「くそっ…」

一人で悔しがっているデル。

「…!？なんで俺はハクのことこんなに気になるんだ…!？ただの同じVOYAKILOIDなのに…」

デルはしばらく混乱していたがやがて一つの結論に至った。

「俺…死音に嫉妬してる…？俺はもしかして…ハクのことか…」

「どうしたの…デル…？」

「…テト…」

悩むデル（デル視点）（後書き）

デルが嫉妬…

ハクが羨ましいです…（^|^-）

ちなみに、重音テトも亜種です（^|^-）

私…君が好きなの!! (前書き)

とうとうハクが告白!!

私…君が好きなの…!!

「死音君…」

「ハ…ク…?」

「死音君…言いたい…ことがあるの…」

「……?」

「あのね…」

「…?」

「私…君が好き…死音君のことが大好きなの…!!」

「ハク……」

「……」

（とうとう言っちゃった…!!）

「ハ…ク…」

「……」

「僕…よく…分からない…」

「……」

（駄目なのかな…）

「でも…ハクに…言われて…嬉しいよ…?」

「……!!」

「僕…ハクと…一緒に…居たい…」

「……本当?」

「……」（コクリ）

「……死音君…大好き…!!」

私…君が好きなの！！（後書き）

さて…

いったいどうなるのでしょうか…？

（お前自分が作者だろww）

…やっぱり…な。(デル視点)(前書き)

だいぶ遅くなりまして申し訳ありません!!
また書き始めますね!!

…やっぱり…な。(デル視点)

「……どうにも怪しいぜ……」

「……?」

「ハクがな…おかしいんだよ…」

「???」

「あれはいつものハクじゃなかった…」

「へえ…やっぱり付き合い長いと分かるんだねえ…」

「くそっ…デモなんでこんなにハクのことを心配しなくちゃならねえんだよ…」

「…あなたが…ハクを好きだからじゃない…」

「なっ……」

「…違う…?」

「……いや…うすうす自分でも感じていたさ…俺は…ハクが好きなんだ…ってな…」

「…その気持ち…ハクに言ってみたら…?」

「いや…もう無駄だろ…」

「何で…?」

「お前の後ろ…に壁があるな…」

「…あるね…」

「まあ…その穴から見てみるよ…ハクが見えるぜ…」

「うん…?」

テトは穴を覗いた。すると…

「えっ!?!ハク…知らないボカロと手を…!?!」

「ああ…死音って言うらしい…」

「……」

「だから無駄なんだよ…もう…彼氏がいるんだからな…」

…やっぱり…な。(デル視点)(後書き)

…デル…無言の失恋…

皆さんも経験ありませんか…？

えっと…これは…ね…？（前書き）

ハク、デル、死音が直接会います！！
デルの行動、ハクの反応とは…？

えっと…これは…ね…？

「ふふ」

「ハク…ご機嫌…？」

「え？あ…まあね／＼／」

「なん…で…？」

「それは…死音が居るからだよ…／＼／」

「…うれしい…？」

「…嬉しいよ…」

「…僕も…嬉しい…」

「そっか…」

しばらくして…

「あ…ハク…」

「デル…と…テト…？」

「ハク、やつほ」

『元気な31歳なことで…』

「…なんか変な事考えてない…？」

「考えてない考えてない！！」

「…誰…？」

「えっと…本音デルと…重音テト…」

「ハク…そいつは…？」

「死音…私の…彼氏…」

「ハクの…彼氏さん…？」

「へえ…お前が彼氏を作るとは…」

「あ、ごめん…今からちよつとデルと出かけてくるんだ…」

「おう、そういうことだからよ、二人で留守番頼むな…？」

「う、うん…分かったよ…」

「ほい鍵。」

「…了解…」

「じゃ、行ってくるな。死音…か？ハクを頼むぜ。」

「…了解…した…」

「じゃあな！！」

「うん…」

そして二人は離れていった…

えっと…これは…ね…？（後書き）

テトは31歳なんですよ（^-^;）
顔は超口リに見えますが…

次はまたデル視点です（^| ^）

何…だって…（デル視点）（前書き）

どうやらデルにも新たな恋人が出来たみたいで…？

何…だって…（デル視点）

「はあ…」

「元気出しなよ…」

「良いさ…俺たちはボヤキが仕事だ。ボヤキをした方が良いんだよ

…」

「何やってんの？あんたたち…」

「あ…？」

「飽きた寝る…」

「亞北ネルよ…！」

「何の用だよ…」

「べ、別に用は無いけどさ…」

「あつそ…」

「どうしたの…？元気無いわね…？」

「実はデル…ハクに恋人が出来て落ち込んでるのよ…」

「う、うるせえ馬鹿…！」

「ふうん…」

『「チャンス」』

「じゃ、じゃあアタシがなってあげても良いけど…？」

「いや…別にいいや…」

「な、何よ！？せっかくアタシが勇気出したのに…」

「お前…レンじゃ無いのかよ…？」

「実はさ…リンに取られて…」

「じゃあ…お前…さっきの…」

「そ、そうよ…！」「告白」よ…！悪い…！」

「お前…」

「…／／／／／／／／／／」

「ああ…頼む…」

「…！…！」

「恋人に…なつてくれ…!!」
「…仕方ないわね…////」
「好きだぞ…ネル…」
「あ、アタシも…////」
「……………」
『私ほったらかし…』 (テト)

何…だって…（デル視点）（後書き）

亞北ネルも亜種。

弱音ハク、亞北ネルは有名な亜種です！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0798u/>

始まりと終わりのない恋愛

2011年11月24日13時58分発行